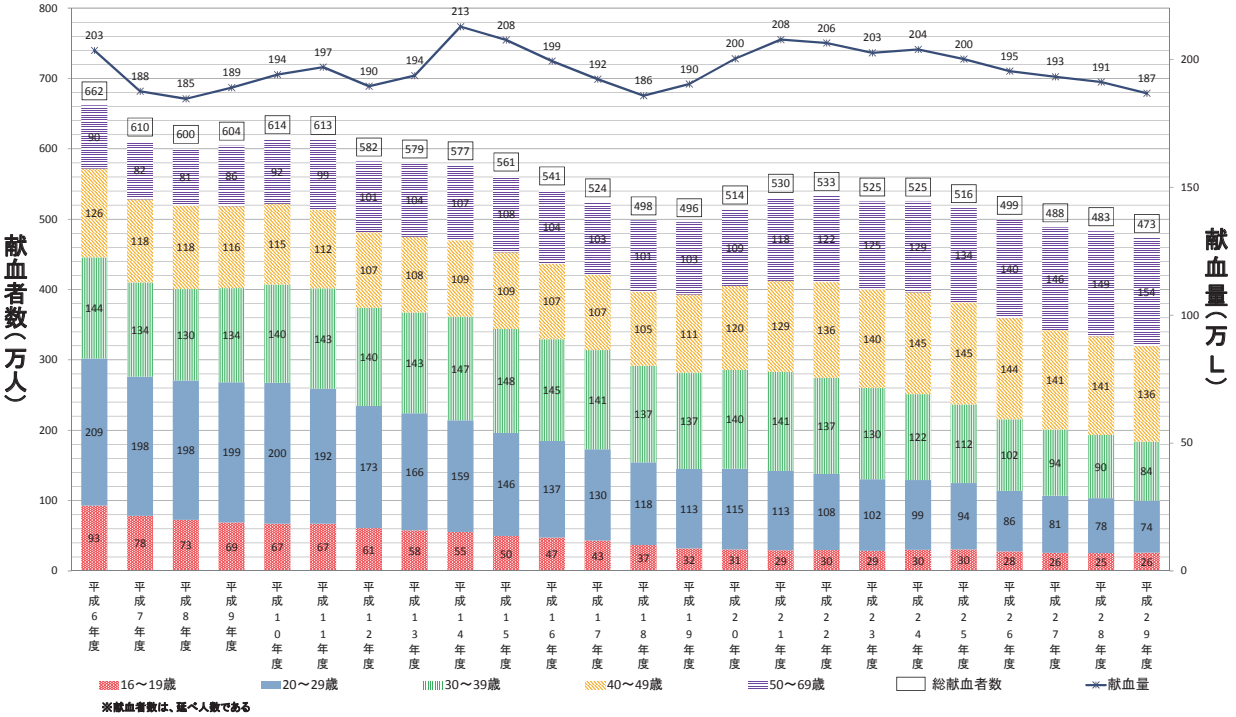
若年層に対する献血推進活動

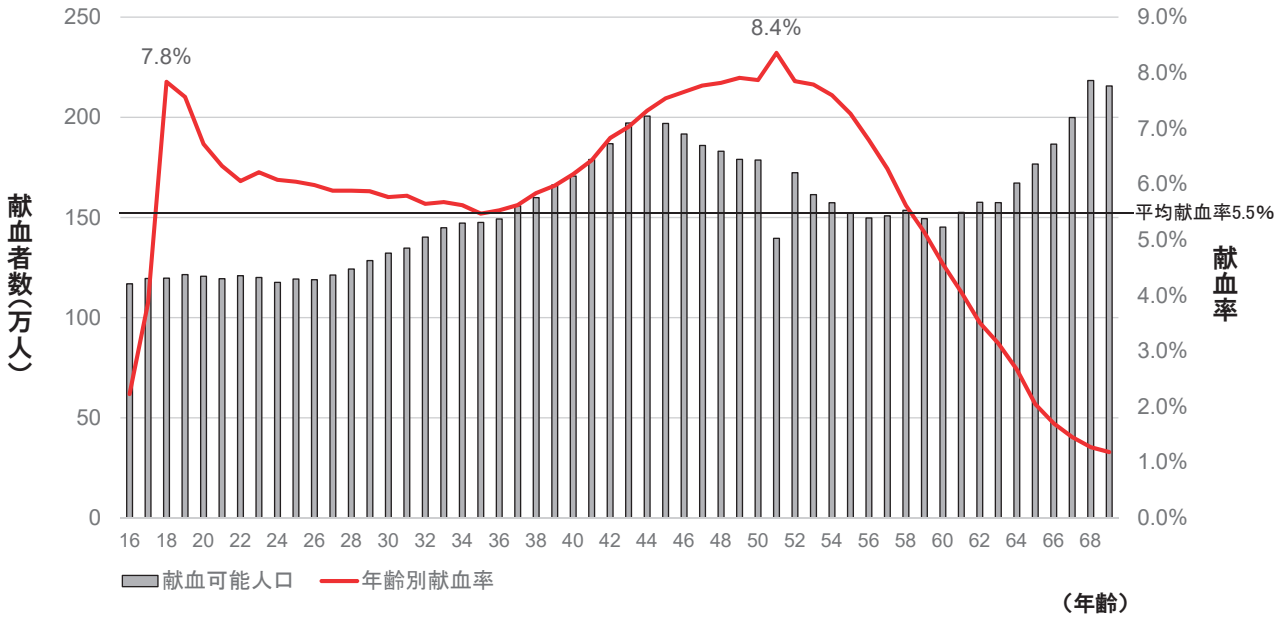
血液製剤の国内自給を基本とした安定供給を確保するためには、その原料である血液を献血によって安定的に確保する必要があります。

近年の献血者数のピークは平成 22 年度の 533 万人でしたが、その後は減少傾向で平成 29 年度は 473 万人と約 11%減少しています。特に 10 代から 30 代の同期間の献血者数は、約 33%も減少しています（図２－９）。また、平成 29 年度の年齢別の献血率（献血可能人口に対する献血者数（延べ人数）の割合）を見ると、18 歳では 7.8%と平均の献血率 5.5%と比べて高い数値を示しているものの、仕事や家事で献血する時間を確保できないなどの理由により、20 代から 30 代前半に



（日本赤十字社提出資料より厚生労働省作成）

図２－９　年代別献血者数と献血量の推移



（日本赤十字社提出資料より厚生労働省作成）

図２－ 10　年齢別献血可能人口と献血率

かけて、減少傾向となっています（図２－ 10）。

少子化で献血可能人口が減少している中、将来に亘り、安定的に血液を確保するためには、若年層に対する献血推進活動が、これまで以上に重要となっています。

厚生労働省では、若年層に対する献血推進活動の取組として、平成２年度から高校生向けテキスト「けんけつ HOP STEP JUMP」を全国の高校に配布しており、文部科学省の協力を得て授業での活用を求めています。平成 21 年７月に改定された「高等学校学習指導要領解説／保健体育編」に「献血の制度があることについても適宜触れる」ことが追記され、平成 25 年度から高校の保健体育の授業でこのテキストを活用していただく環境が整いました。また、平成 17 年度から中学生を対象とした献血への理解を促すポスターを全国の中学校に配布しています（図２－ 11）。さらに、平成 30 年度には新たな取組として、若年層向けの献血啓発映像資材を作成したほか、この映像資材に登場する「献血アイドル」のキャラクターを使った献血啓発ポスターを大学等に配布しています（図２－ 12）。加えて、学校献血や献血セミナーといった献血に触れ合うための機会を高校等において積極的に受け入れてもらえるように文部科学省へ協力を要請しています。

さらに、一度献血を経験した方が継続して献血をしていただくことは、必要血液量を安定的かつ効率的に確保するだけでなく、安全な血液製剤の供給の観点でも重要であることを広く国民に周知するとともに、日本赤十字社が運営している複数回献血クラブ「ラブラッド」（図２－ 13）への登録を呼びかけています。

なお、地方公共団体及び日本赤十字社では、地域の実情に応じて、小中学生の段階から献血に関する知識の普及啓発を目的とした「キッズ献血（模擬献血）」などを行っているほか、社会福祉法人はばたき福祉事業団による、幼児向けの絵本「ぼくの血みんなの血」や厚生労働省ホームページの「けつえきのおはなし」など、幼少児期からの取組も行われています（図２－ 14）。

図２－ 11　「けんけつ HOP STEP JUMP」（左）、
中学生を対象とした献血への理解を促すポスター（右）

図２－ 12
（映像は厚生労働省ホームページで閲覧できます）

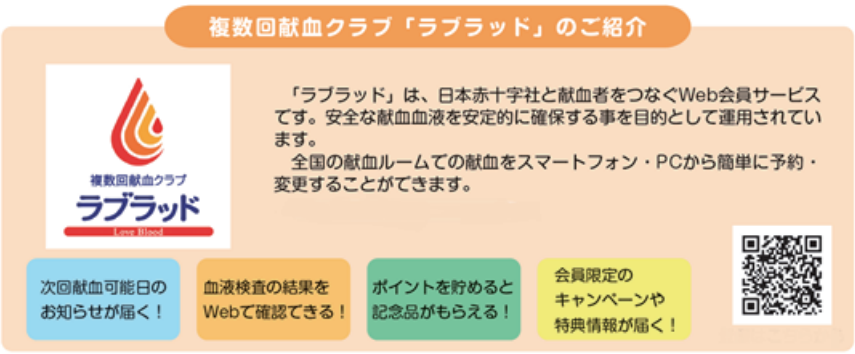


図２－ 13

図２－ 14　けつえきのおはなし

ミニコラム

日本赤十字社　主催

“LOVE in Action Meeting（LIVE）”

フォトレポート

若年層へ献血の大切さを伝え、献血への協力を呼びかけるプロジェクトとして2009年より立ち上げられた『LOVE in Action』。6月14日の『世界献血者デー』を盛り上げるべく、2018年で9回目となる『LOVE in Action Meeting (LIVE)』が開催されました。

プロジェクトリーダーの“レモンさん”こと山本シュウさんと、フリーアナウンサーの小林麻耶さんが司会を務める中、本プロジェクトに賛同したアーティストたちによる熱いパフォーマンスが披露されました。イベントの様子はオンラインで生配信され、献血の大切さを全世界に向けて発信しました。

トップバッターを飾ったandropは、平成30年「はたちの献血」キャンペーンソング『Ao』を披露。「僕らの行動で救える命がある。そんな献血のつながりを歌った曲です。最後に一緒につながりませんか。」と呼びかけ、熱いパフォーマンスで観客を魅了しました。

楽器を持たないパンクバンドとして話題のBiSHは、エモーショナルなパフォーマンスで観客を魅了しました。

「普段、献血について深く触れることがなかったので、今日は改めて知ることができました。みなさんこの機会に献血に行きましょう！」と献血への参加を呼びかけました。

私立恵比寿中学は、皆を元気にする全身全霊のパフォーマンスで会場を熱気に包みました。

ライブ終了後には「初めての献血は勇気がいると思います。そして、心も体も元気で健康なことが必要だと思います。私たちのパフォーマンスで笑顔になってくれたら嬉しいです。」と語っていました。

MCトークでは、クイズ形式で献血に関する知識を伝えるとともに、多くの人の協力が必要だと呼びかけました。

また、モデルやタレントとして活躍する友寄蓮さんが登壇し、受血者としての経験談を披露。壮絶な闘病生活について振り返るとともに、「心が折れたときに、100人以上の血液で生かされているんだなと思ったら、頑張らないと」と力強く語りました。

ダンスパートでは、「第11回日本高校ダンス部選手権　新人戦」でLOVE in Action 特別賞を受賞した「大同大学大同高等学校」「神戸大学附属中等教育学校」「山村国際高等学校」の3校が豪快なパフォーマンスを披露。

気合いの溢れる熱いダンスに、会場からは大きな拍手が送られました。

LOVE in Action Meeting